

14 自主防災組織

東海地震のような大地震から自分や家族の命を守るためには、普段から様々な備えを講じておくことが大切です。しかし、個人や家族の力だけでは限界があります。隣近所の人たちが互いに協力し合い防災活動に組織的に取り組むことが必要です。

災害発生時はもちろん、日ごろから地域の皆さんが一緒になって防災活動に取り組むための組織、これが「自主防災組織」です。男性・女性、高齢者、障がいのある人、子ども・若者、外国人等多様な個人の意見を聞き、自主防災組織の運営に反映させましょう。

1) 平常時・災害時の活動

- 平常時
 - 地域内の安全点検・・・巡回点検、危険箇所の調査など
 - 防災知識の普及・啓発・・・地域の災害危険度、家庭での対策、要配慮者の把握など
 - 防災訓練・・・訓練の企画と実施、応急手当の講習など
- 災害時
 - 初期消火・・・出火防止対策の呼びかけ、初期消火、火災の警戒
 - 救出・救助・・・救出・救助、防災機関との協力
 - 応急手当・搬送・・・応急手当、家庭の医薬品の活用、搬送先病院の状況確認
 - 情報の収集・伝達・・・情報の収集伝達、デマ防止、防災機関への被害報告
 - 避難誘導・・・避難の呼びかけ、安全な避難誘導、避難者氏名等の確認
 - 避難所の運営・管理・・・物資配分の協力、炊き出し、生活ルールの調整・決定

2) 防災資機材の整備

自主防災組織に必要とされる防災資機材は、地域の実情に応じて何がどのくらい必要か検討し、不足するもの、新たに必要なものがあれば整備するようにしましょう。その際に、女性や高齢者でも使いやすい資機材の整備も心がけましょう。

ただし、いくら防災資機材が揃っていても、いざという時に使えないのでは意味がありません。日ごろから、点検や動作訓練、消耗品のチェックなどを実施しておきましょう。

【消防庁が示す防災資機材(例)】

目的	防災資機材
①情報収集・伝達用	無線機、拡声器、携帯用ラジオ、腕章、住宅地図、模造紙、メモ帳、油性マジック（安否・被害状況等情報収集・提供の際に用いる筆記用具として）等
②初期消火用	可搬式動力ポンプ、可搬式散水装置、防火水槽、ホース、スタンドパイプ、格納器具一式、街頭用消火器、防火衣、鳶口、ヘルメット、水バケツ、防火井戸等
③水防用	救命ボート、救命胴衣、防水シート、シャベル、ツルハシ、スコップ、ロープ、かけや、くい、土のう袋、ゴム手袋等
④救出用	パール、はしご、のこぎり、スコップ、なた、ジャッキ、ベンチ、ハンマー、ロープ、チェーンソー、エンジンカッター、チェーンブロック、油圧式救助器具、可搬式ウィンチ、防煙・防塵マスク等
⑤救護用	担架、救急箱、テント、毛布、シート、簡易ベッド等
⑥避難所・避難用	リヤカー、発電機、警報器具、投光機、標識板、標旗、強力ライト、簡易トイレ、寝袋、組立式シャワー等
⑦給食・給水用	炊飯装置、鍋、コンロ、ガスボンベ、給水タンク、緊急用ろ水装置、飲料用水槽等
⑧訓練・防災教育用	模擬消火訓練装置、放送機器、119番訓練用装置、組立式水槽、煙霧機、視聴覚機器（ビデオ・映写機等）、火災実験装置、訓練用消火器、心肺蘇生用訓練人形、住宅用訓練火災警報器等
⑨その他	簡易資機材倉庫、ビニールシート、携帯電話機用充電器、ブルーシート等

出典：消防庁発行「自主防災組織の手引き」（消防庁）

https://www.fdma.go.jp/html/life/bousai/bousai_2304-all.pdf もとに星光社印刷株式会社作成